

学院創立 135 周年・大学開設 60 周年記念式典 挨拶

2009 年 11 月 16 日（月）

理事長の松澤でございます。一言ご挨拶申し上げます。

本日は青山学院創立 135 周年並びに大学開設 60 周年にあたり、記念式典のご案内を申し上げましたところ、ご多用中にもかかわらず、文部科学大臣川端達夫様の代理として文部科学省高等教育局私学部私学行政課長村田善則様、また、日頃ご指導頂いております、渋谷区長桑原敏武様はじめ、ご来賓の皆様方、青山学院関係の皆様方のご臨席を賜り、このように式典を祝うことができますことを、青山学院を代表いたしまして、心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

創立記念日の 11 月 16 日は、1874 年（明治 7 年）に米国メソジスト監督教会から派遣された宣教師であるスクーンメーカー先生が単身、サンフランシスコから帆船で 25 日を掛けて日本にこられ、「女子小学校」を麻布の地に開校した日を記念したものです。

創立以来この 135 年を顧みますときに、それぞれの時代において、苦難の時もございましたが、関係各位のご支援・ご協力を得、また私達の先輩方の努力によりまして、建学の精神であるキリスト教信仰に基づく教育・研究を堅持・継承し、今日に至ったわけでございます。また、アメリカの合同メソジスト監督教会は、学院創立以来、宣教師の派遣や経済的支援により、青山学院の教育・研究を支えてくださいました。そして、日本の校友の方々からも、間島記念館、万代奨学基金をはじめとして多くのご支援をいただいたことを、私達は決して忘れることはありません。

この創立 135 周年に際し、改めまして私ども青山学院は、単に学問的な知識を習得させるだけでなく、広い視野を持った豊かな人間性と、しっかりとした倫理観を身につけた、自分で考え、実行する人間を求めています。本学のスクールモットーであるところの、聖書の言葉にある「地の塩、世の光」として人に仕え、社会に仕える有為な人材を育成するという、神様より託された大切な使命を果たし、またその社会における存在意義を常に考え行動しております。

昨年来の世界的経済不況に加え、少子化等の影響を受けて、学校をめぐる環境は大変厳しい状況にあります。しかしこの様な時を好機と捉え、「改革の幕開けの年」と位置づけ、21 世紀に相応しい教育内容の充実・発展に向け、スピード感をもって改革を推進しなければならないと努力して参る所存でございます。昨年、「理事長声明」としまして、キリスト教信仰にもとづく建学の精神のもと、「人間教育の再創造」「環境の整備」「戦略の強化」を三つの柱とした 174 項目の課題を提示し、現在法人・教員・職員一体となってこれに取り組んでおります。そのひとつと致しまして、大学において 2012 年 4 月から就学キャンパスの再配置を実施し、人文・社会科学系 7 学部の 1 年生から 4 年生までが一貫して青山キャンパスで学ぶことを決定いたしました。その他、これら 174 項目の課題を実現することにより、青山学院は、21 世紀に相応しい魅力と特色ある総合学園へと発展を遂げることができるものと確信しております。

これからも青山学院は建学の精神を堅持し、次の 150 周年・200 周年の記念日を堂々と迎えらるよう、我が国の教育・研究の一端を担ってまいります。ご参集の皆様方におかれては、変わらぬご指導・ご鞭撻賜らんことを、そして神様の豊かな祝福が皆様方の上にあらんことをお祈りし、私の挨拶といたします。

本日は誠にありがとうございました。